



平和の砦の礎を築く

先日の火入れ式に際しましては、たくさんの方々にご参加いただき、ありがとうございました。さて、本年度より修学旅行の実施時期を11月後半に移しました。昨年度までは、運動会終了後すぐの実施ということで修学旅行の準備の時間を十分に取れず、子供たちへの負担が大きかったためです。今年の修学旅行も、昨年度に引き続き、広島方面へ参りますが、昨年度との大きな違いは、第一日目に大久野島での学びの後、広島平和公園へと向かうことです。

大久野島は、広島県竹原市の南の沖合約3キロメートルに位置する小さな島です。実はこの瀬戸内海の小さな島こそ、幾度となく戦争で利用された悲劇の島なのです。19世紀末、西欧諸国の植民地拡大競争は激しくなります。日清戦争(1894~1895年)の後、日本にとっての最大の脅威はロシアでした。そこで日本は、ロシアのバルチック艦隊の進攻に備えて瀬戸内海に要塞建設を計画することになります。そのとき白羽の矢が立った島の一つが大久野島なのです。要塞は、明治32年(1899年)に建設が始まり翌年3月に完成したといわれています。(実際に、戦争では使用されることはありませんでした。)

昭和2年(1927年)、島は陸軍の管理下に置かれることとなります。その目的は「毒ガス製造」でした。昭和4年(1929年)から終戦頃まで極秘に製造され続けます。機密保持のため、昭和13年(1938年)には島の存在自体が地図から消されることになりました。それもそのはず当時、ベルサイユ条約(1918年)やジュネーブ議定書(1925年)で、無差別に人間を殺害する毒ガスはあまりにも残酷なので、世界各国が、使用を禁止していた兵器だったからです。にもかかわらず、日本は国際条約に違反し、第二次世界大戦で使用しました。そして、この戦争の結末が2度にわたる原爆の投下につながるのです。時系列での戦争関連の遺構に触れる中で、子供たちにはなぜ日本は戦争への道へ舵を切ることになったのか、そして何より戦争が人々に齎した最大の代償は何なのか、その上に立ち、唯一の被爆国である日本に住む私たちが担うべき役割は何であるのかについて考える機会になればと考えています。

6年生の子供たちは、国語の授業の中で、ユネスコ憲章の前文に次のような記載があることを学んでいます。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。」
いよいよ、今週末は、創立70周年記念音楽会です。今から70年前の昭和24年は、どんな世の中だったのでしょうか。平和な世の中は訪れていたのでしょうか。本城先生から当時のお話を伺う機会も設定しています。戦後間もないころの国民のくらしの様子を当時の視点で実感することで、改めて戦争の爪痕の根深さを知るとともに、ひもじさや孤独に負けず、敗戦後の日本を我武者羅に生き抜いた当時の人々の力強さを感じとってほしいものです。そして、これら一連の学習が、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家や社会の形成者の礎となることを願います。



六甲山小学校長



神戸市では、住所地により決められた校区の小学校・中学校(指定学校)に通学していただいています。しかし、相当な理由がある場合は、指定学校の変更ができる場合があります(例えば、「年末に隣の校区に転居するが、3月に卒業予定なので、思い出のある今の学校で卒業したい。」など)。指定学校の変更を希望される場合は、学校へご相談ください。なお、指定学校に関する詳しい基準や手続きについては、神戸市ホームページに記載しています。【神戸市ホームページ <http://www.city.kobe.lg.jp/child/school/area/kouku/>】